

遠隔授業のクラスによる受講状況の比較

～「コンピュータと情報Ⅱ」の履修者調査から～

松山智恵子

中島豊四郎

1. はじめに

椋山女学園大学文化情報学部では1年次の後期に教養教育科目（選択科目）として、「コンピュータと情報Ⅱ」を6クラス開講している。シラバス（教科書を含む）を共通として、2020年度は5名の教員が担当した（1名が2クラスを担当）。授業形態は、大学側から2020年度後期の授業は原則遠隔授業での実施が求められたこともあり、かつ、前期の「コンピュータと情報Ⅰ」を遠隔授業で行った実績もあることから、「コンピュータと情報Ⅱ」についても全クラス遠隔授業で実施することになった。

この「コンピュータと情報Ⅱ」の遠隔授業の実施形態はどのクラスも「オンデマンド形式」で行ったが、担当教員により資料の作り方や配布時期、提出物の回収の仕方など様々な点が異なっている。このような中で、「コンピュータと情報Ⅱ」の受講者を対象としてGoogleフォームを利用して、遠隔授業に関する受講状況などを調査した。その結果については、「情報リテラシー科目における遠隔授業に関する調査～2020年度後期「コンピュータと情報Ⅱ」から～」で報告している¹⁾。しかし、この報告においては、クラスによる差異については言及していなかった。そこで、ここでは筆者らが担当した2つのクラスについて受講状況を比較した結果について述べる。

2. 調査方法と回答率

学生へのアンケート調査の時期は、授業の14回目から約1カ月間とし、Googleフォームを利用した。クラスごとに使用しているLMS（Learning Management System）を通じて、アンケートの回答に協力するように依頼した。筆者らが担当したクラスのアンケートの回答率等を表1に示す。表1より、クラス①の回答率は94.6%と高いが、あったが、クラス②は60%であった。クラス②の回答率が60%であることから、今回の比較においてはそのことを考慮し、比較検討を行う。

3. 各クラスの授業実施形態

文化情報学部の「コンピュータと情報Ⅱ」はシラバスを共通化しているが、担当教員ごとに遠隔授業の実施形態は異なっている。表2に2つのクラスの授業形態、教材配布時期、課題の提出期限、

表1 回答率

クラス	履修者数 (人)	回答数 (人)	回答率 (%)
①	37	35	94.6
②	45	27	60.0

表2 「コンピュータと情報Ⅱ」のクラス別の授業の実施形態について

項目 \ クラス	①	②
実施形態 (オンデマンド・リアルタイム)	オンデマンド型+授業時間帯 (10:50~12:20)にリアルタイム (教員待機)	オンデマンド型+授業時間帯 (13:20~14:50)にリアルタイム (教員待機)
LMS	GC*	GC、WebClass
教材の種類	教科書、PowerPoint	教科書、動画
提出物指示	毎回有り	毎回有り
教材開示の時間	授業日より前	授業日(当日の時間帯)
課題提出期限	授業当日の20時、22時、中間、試験期間の2回	次の授業前日23:59まで
課題に取り組める時間	1日+2、3日(当日課題)	7日
出欠のとり方	授業当日の20時、22時までに提出 で出席	WebClassの出席回答 (当日授業時間帯)
質問対応	授業時間帯にMeet、ほかの時間は メール	授業時間帯にMeet、ほかの時間は メール、LMSメッセージ
フィードバック	課題のフィードバックは全体にま とめて行い、質問メールは個別対応	課題の返却を個別に行いフィード バック、質問メールは個別対応

* GC : Google Classroom、PPT : PowerPoint

出席のとり方、学生へのフィードバックの仕方などを示す。

表2に示すように、両クラスとも遠隔授業の実施形態はオンデマンド型で、各教員は動画や資料(Power Point)の教材を配信し、当日の授業時間帯にリアルタイムで学生からの質問対応を行うためにテレビ会議システム(Google Meet等)にアクセスした状態で待機していた。LMSは大学で推奨しているGoogle Classroomを使用しており、クラス②ではこれに加えてWebClassを使用していた。本科目は、PC実習を伴う授業内容であるため、実習した成果物となるファイル等の提出はどちらも毎回あり、クラス①では課題の提出で出席を取る方式のため、課題の提出期限は授業日当日(23:59まで)としていた。一方、クラス②では次週の授業前日までとした。ただし、クラス①では出席を取るための課題は当日であったが、中間、期末の課題は2週間程度の期間を設けていた。

4. 履修者の受講状況の比較

調査項目は、遠隔授業をどこで受講しているか、授業を受けた日、時間帯などについて選択肢を準備して回答を求め、さらに「通常の対面授業と比べ、遠隔授業を受講して思うこと」の10項目では、「とても思う」「やや思う」「どちらともいえない」「あまり思わない」「全く思わない」の5つの選択肢を準備した。

4.1 回答者の学科・学年

履修者は2クラスとも文化情報学科生、メディア情報学科生が混在しており、回答者のうちクラス①では80%が文化情報学科、20%がメディア情報学科で、クラス②では63%が文化情報学科、37%がメディア情報学科であった(表3)。

また、学年の内訳は、表4より、クラス①は

91.4%が、クラス②では85.2%が1年生であった。

4.2 遠隔授業の受講場所

表5より、遠隔授業の受講場所は、両クラスともほとんどの学生が自宅（自室）または自宅（自室以外）で受講していた。クラス②の1名は他の科目の対面授業を受講するために大学に来ていたので大学内の教室で遠隔授業を受講していた。

4.3 受講した時間帯

授業を受講した時間帯で最も多かった時間帯を回答してもらった結果を表6に示す。表6より、クラス①では、「昼～18：00までの午後」が最も多く34.3%、クラス②では「21：00～24：00」が最も多く37.0%であった。また、どちらのクラスも「授業の時間帯（時間割通り）」に受講する学生が20%、25.9%と2割くらいいた。これらより、

表3 回答者の所属学科の内訳

所属学科	①人数(人)	②人数(人)	①割合(%)	②割合(%)
文化情報学科	28	17	80.0	63.0
メディア情報学科	7	10	20.0	37.0

表4 回答者の学年の内訳

学年	①人数(人)	②人数(人)	①割合(%)	②割合(%)
1年	32	23	91.4	85.2
2年	3	3	8.6	11.1
3年	0	0	0.0	0.0
4年	0	1	0.0	3.7

表5 受講場所

項目（受講場所）	①人数(人)	②人数(人)	①割合(%)	②割合(%)
自宅（自室）	32	23	91.4	85.2
自宅（自室以外の部屋）	3	2	8.6	7.4
大学内のPC教室	0	1	0.0	3.7
大学内の講義室（持参したPCで受講）	0	0	0.0	0.0
帰省先（実家）	0	0	0.0	0.0

表6 受講した時間帯

項目（受講した時間帯）	①人数(人)	②人数(人)	①割合(%)	②割合(%)
授業の時間帯（時間割通り）	7	7	20.0	25.9
午前中	5	1	14.3	3.7
昼～18：00までの午後	12	5	34.3	18.5
18：00～21：00	4	2	11.4	7.4
21：00～24：00	5	10	14.3	37.0
24：00～深夜	2	2	5.7	7.4

学生らの受講時間帯は、オンデマンド授業であることを有効に利用して受けたいときに受けているということがわかる。

4.4 受講した日

授業を受講した日で最も多かった日を回答してもらった結果を表7に示す。クラス①では授業日より前に教材を開示していることから、「授業の前日」の回答がやや多く40%で、「授業当日」が48%であった。クラス②では、「授業当日」が37%で、「授業の日から1週間のうちのいずれかの日」が33.3%、「授業の課題の締め切りに近くなってから」が22.2%と回答している。これより、受講する日はクラス②の方が分散していることがわかる。

4.5 通常の対面授業と比べ、遠隔授業を受講して思うこと

通常の対面授業と比べて遠隔授業を受講して思うことについて、表8に示す10項目についての結果から次のようなことがわかった。

(1) 集中して授業を受けることができる

表8 (1) より、両クラスとも「とても思う」と「やや思う」の回答数が多く、この二つを合わせると80%、77.7%となり、大半の学生が集中して授業をうけることができるとしている。一方で、「どちらともいえない」や「あまり思わない」学生も少数ではあるがいます。

(2) 配布資料を受け取りやすい

表8 (2) より、両クラスとも「とても思う」と回答した学生が多く、「やや思う」と合わせて、クラス①が82.9%、クラス②が85.1%となり、遠隔授業の方が教材として資料を配布するため、しっかり受け取ることができていたと思われる。

(3) 課題の提示や指示がわかりやすい

表8 (3) より、クラス①では、課題の提示がわかりやすいと思う学生は「とても思う」と「やや思う」で30%前後とほぼ同数であるが、クラス②では、「やや思う」が44.4%に対して、「とても思う」は18.5%で「どちらともいえない」の22.2%の方が多い。この違いについては、クラス①では、PowerPointをもとにした資料提示であったのに対して、クラス②は動画による教材提示であることから、課題の指示がわかりにくいと思ったのではないかと推測される。

(4) 教員とのコミュニケーションがスムーズにできる

遠隔授業でのコミュニケーションはメールやビデオ会議システムを介してのコミュニケーションを学生が自発的に取らなければならないため、それらのツールを使わなければならない手間などを含めるとスムーズにコミュニケーションをとるのは難しいと思われるが、表8 (4) に示すようにそのような環境であってもクラス①では「とても思う」が37.1%と比較的多く、クラス②では3.7% (1

表7 受講した日

項目 (受講日)	①人数(人)	②人数(人)	①割合(%)	②割合(%)
授業の前日	14	0	40.0	0.0
授業当日	17	10	48.6	37.0
授業の翌日	0	2	0.0	7.4
授業の課題の締め切りに近くなってから	3	6	8.6	22.2
授業の日から1週間のうちのいずれかの日	1	9	2.9	33.3

名)であった。この差異については、引き続き調査する必要がある。ただし、「あまり思わない」は両クラスとも25%程度いる。これについては、遠隔授業であるが故にやむを得ないことであるが、教員とのコミュニケーションを取りやすくする工夫が必要である。

(5) 学生同士で相談できる

(4)と同様に遠隔授業では、教室で対話しながらの相談のように容易に相談できる環境とは言えないことから、表8(5)より、「あまり思わない」と「全く思わない」を合わせると、クラス①では70%、クラス②では62.9%で、クラスによる差はあまりない。これについても今後工夫していく必要がある。

(6) 教員への質問がしやすい

表8(6)より、クラス①では、「とても思う」が37.1%と最も多く、クラス②では「どちらともいえない」が37.0%と最も多かった。遠隔授業で

は、個別に質問することになるため、その方が質問しやすいと思っている学生と教室で直接質問する方が良いと思っている学生など学生によるところがあると思われるが、この点については引き続き検討が必要がある。

(7) 課題を適切に提出できる

表8(7)より、クラス①では、課題の提出が適切にできると「とても思う」が45.7%と最も多く、クラス②では「やや思う」が最も多く48.1%であった。両クラスとも「とても思う」と「やや思う」を合わせると、68.6%、70.3%となり、適切にの程度の差があるようではあるが、課題の提出は大半ができていけると言える。

(8) 授業内容をおおむね理解できる

表8(8)より、遠隔授業であっても授業内容をおおむね理解できると「やや思う」と回答した学生が両クラスも多く、「とても思う」を合わせると、クラス①では82.9%、クラス②では59.2%

表8 対面授業と比べて遠隔授業で思うこと

(1) 集中して授業を受けることができる	①人数(人)	②人数(人)	①割合(%)	割合(%)
とても思う	16	10	45.7	37.0
やや思う	12	11	34.3	40.7
どちらともいえない	6	3	17.1	11.1
あまり思わない	1	3	2.9	11.1
全く思わない	0	0	0.0	0.0
(2) 配布資料を受け取りやすい	①人数(人)	②人数(人)	①割合(%)	②割合(%)
とても思う	19	12	54.3	44.4
やや思う	10	11	28.6	40.7
どちらともいえない	4	2	11.4	7.4
あまり思わない	2	1	5.7	3.7
全く思わない	0	1	0.0	3.7
(3) 課題の提示や指示がわかりやすい	①人数(人)	②人数(人)	割合(%)	割合(%)
とても思う	11	5	31.4	18.5
やや思う	10	12	28.6	44.4
どちらともいえない	8	6	22.9	22.2
あまり思わない	6	3	17.1	11.1
全く思わない	0	1	0.0	3.7

(4) 教員とのコミュニケーションがスムーズにできる	①人数(人)	②人数(人)	割合(%)	割合(%)
とても思う	13	1	37.1	3.7
やや思う	8	6	22.9	22.2
どちらともいえない	3	10	8.6	37.0
あまり思わない	9	7	25.7	25.9
全く思わない	2	3	5.7	11.1
(5) 学生同士で相談できる	①人数(人)	②人数(人)	①割合(%)	②割合(%)
とても思う	6	1	17.1	3.7
やや思う	1	4	2.9	14.8
どちらともいえない	7	5	20.0	18.5
あまり思わない	11	8	31.4	29.6
全く思わない	10	9	28.6	33.3
(6) 教員への質問がしやすい	①人数(人)	②人数(人)	割合(%)	割合(%)
とても思う	13	2	37.1	7.4
やや思う	8	8	22.9	29.6
どちらともいえない	8	10	22.9	37.0
あまり思わない	6	6	17.1	22.2
全く思わない	0	1	0.0	3.7
(7) 課題を適切に提出できる	①人数(人)	②人数(人)	割合(%)	割合(%)
とても思う	16	6	45.7	22.2
やや思う	8	13	22.9	48.1
どちらともいえない	9	7	25.7	25.9
あまり思わない	2	1	5.7	3.7
全く思わない	0	0	0.0	0.0
(8) 授業内容をおおむね理解できる	①人数(人)	②人数(人)	割合(%)	割合(%)
とても思う	12	6	34.3	22.2
やや思う	17	10	48.6	37.0
どちらともいえない	3	8	8.6	29.6
あまり思わない	3	2	8.6	7.4
全く思わない	0	1	0.0	3.7
(9) 大きな問題なく授業を受講できる	①人数(人)	②人数(人)	割合(%)	割合(%)
とても思う	12	6	34.3	22.2
やや思う	12	11	34.3	40.7
どちらともいえない	9	7	25.7	25.9
あまり思わない	1	3	2.9	11.1
全く思わない	1	0	2.9	0.0
(10) 自分のペースで受講できる	①人数(人)	②人数(人)	割合(%)	割合(%)
とても思う	24	19	68.6	70.4
やや思う	10	6	28.6	22.2
どちらともいえない	1	1	2.9	3.7
あまり思わない	0	1	0.0	3.7
全く思わない	0	0	0.0	0.0

で、クラス①の学生の方が授業内容をおおむね理解できているとしている学生は多かった。これについては、クラス②の回答率との関連があると思われるが、それ以外の理由についても調査していく必要がある。

(9) 大きな問題なく授業を受講できる

表8 (9) より、大きな問題なく遠隔授業を受講できると「とても思う」と「やや思う」を合わせると、クラス①では68.6%、クラス②では62.9%となり、大きな問題はなく授業を受講できたとしている。一方で、「どちらともいえない」や「あまり思わない」と回答した学生が少なからず問題が生じたことになると思える。これについては、前述の授業内容をおおむね理解できるの回答と関連があると思われる。

(10) 自分のペースで受講できる

表8 (10) より、両クラスも自分のペースで受講できると「とても思う」学生は7割程度を占め、かつ、クラスの差はない。これより、遠隔授業の

方が自分のペースで受講できていることがわかる。

4.6 EXCELの教科書の難易度

「あなたにとって教科書の難易度はどうでしたか?」という問いに対する回答を表9に示す。表9より、クラス①では、68.9%が「適切だった」としているが、クラス②では、「適切だった」44.4%と「難しかった」40.7%に回答が分かれていることがわかる。これについては、教科書は共通であるものの、教員ごとに課題が異なるため、それらも含めて教科書の難易度ととらえた可能性もあるため、質問の仕方についてももう少し工夫すべきであった。

4.7 HTML & CSSの教科書の難易度

「あなたにとってHTML & CSSの教科書の難易度はどうでしたか?」という問いに対する回答を表10に示す。表10より、HTML & CSSの教科書では、両クラスの回答の分布は似通っており、「適切だった」が最も多く、クラス①で45.7%、クラ

表9 EXCELの教科書の難易度

EXCELの教科書	①人数(人)	②人数(人)	①割合(%)	②割合(%)
とても難しかった	1	2	2.9	7.4
難しかった	5	11	14.3	40.7
適切だった	24	12	68.6	44.4
やや簡単だった	5	2	14.3	7.4
かなり簡単だった	0	0	0.0	0.0

表10 HTML & CSSの教科書の難易度

HTML & CSSの教科書	①人数(人)	②人数(人)	①割合(%)	②割合(%)
とても難しかった	8	7	22.9	25.9
難しかった	10	9	28.6	33.3
適切だった	16	11	45.7	40.7
やや簡単だった	1	0	2.9	0.0
かなり簡単だった	0	0	0.0	0.0

ス②で40.7%であるが、「難しかった」、「とても難しかった」の順になっている。これより、両クラスの差異はあまりなく、HTMLなどのプログラミング学習は難易度が高いと思っている学生が多くいることがわかる。

4.8 わからないことの主な解決手段

「わからないことがあったときに主にどのように解決しましたか？（複数回答可）」に対する回答を表11に示す。表11より、両クラスとも「教科書を見直した」が最も多く、クラス①は88.6%、クラス②は92.6%で大差はなく、「配布された教材・動画を見直した」もどちらも70%台で大差はない。クラスによる差があるのは、「友人・知人に相談した」や「担当教員にメールで質問した」、「担当教員にビデオ会議システムで質問した」がクラス①の割合がクラス②よりも多い。

これについて、表8(6)の教員への質問がしやすいと「とても思う」がクラス①では37.1%いたことから関連していると思われる。

4.9 授業の教材

「授業の教材はどのようなものがありましたか？（複数回答可）」という問いに対する回答を表12に示す。表12より、「教科書」の割合が高いのは当たり前であるが、クラス①では、配布資料(PDF)が71.4%と多く、クラス②では「動画（PowerPoint以外）」が66.7%、「資料（LMSで提示された文章など）」が48.1%、「配布資料」が33.3%と複数の教材を回答していることがわかる。

4.10 一番学習の役に立つ教材

「授業の教材のうち、どれが一番役に立つ教材でしたか？（複数回答可）」の回答を表13に示す。

表11 わからないことの解決手段（複数回答可）

わからないことの主な解決手段	①人数(人)	②人数(人)	①割合(%)	②割合(%)
教科書を見直した	31	25	88.6	92.6
配布された教材・動画を見直した	25	20	71.4	74.1
ネット検索して調べた	23	16	65.7	59.3
友人・知人に相談した	18	8	51.4	29.6
担当教員にメールで質問した	8	3	22.9	11.1
担当教員にビデオ会議システムで質問した	11	5	31.4	18.5

表12 授業の教材

教材は何があったか（複数回答可）	①人数(人)	②人数(人)	①割合(%)	②割合(%)
教科書	33	27	94.3	100.0
動画（PowerPointの動画）	0	7	0.0	25.9
動画（PowerPointの動画）音声なし	5	0	14.3	0.0
動画（PowerPoint以外の動画）	0	18	0.0	66.7
動画（PowerPoint以外の動画）音声なし	0	1	0.0	3.7
音声資料	1	5	2.9	18.5
配布資料（PDF）	25	9	71.4	33.3
資料（LMSで提示された文章など）	2	13	5.7	48.1
その他	1	0	2.9	0.0

表13 一番学習の役に立つ教材

一番役に立った教材（複数回答可）	①人数(人)	②人数(人)	①割合(%)	②割合(%)
教科書	33	20	94.3	74.1
動画（PowerPointの動画）	0	5	0.0	18.5
動画（PowerPointの動画）音声なし	1	0	2.9	0.0
動画（PowerPoint以外の動画）	0	13	0.0	48.1
動画（PowerPoint以外の動画）音声なし	1	1	2.9	3.7
音声資料	0	4	0.0	14.8
配布資料（PDF）	15	2	42.9	7.4
資料（LMSで提示された文章など）	1	4	2.9	14.8
その他	1	0	2.9	0.0

表13より、クラス①では、「教科書」が94.3%、「配布資料（PDF）」が42.9%、クラス②では、「教科書」が74.1%、「動画（PowerPoint以外）」が48.1%である。これより、教科書が一番役に立つ教材となっていることがわかるが、クラス②の方は「動画（powerPoint）」や「音声資料」、「資料（LMSで提示された文章など）」を回答している学生も少数いることがわかる。

4.11 遠隔授業の受講のしやすさ

「コンピュータと情報Ⅱの遠隔授業は、ほかの科目と比べて、受講しやすいと思いませんか？（15回の授業通しての主観でお答えください。）」に対する回答を表14に示す。表14より、「コンピュータと情報Ⅱの方が他の科目より受講しやすかった」学生は両クラスとも3割程度いるが、クラス①では「他の科目とあまり変わらない」が

60.0%と多く、クラス②では、40.7%のとどまり、「他の科目より、受講するのは難しいと思った」が25.9%とクラス①に比べて多いことがわかる。これについては、クラス②では中間テストとしてクラス①では行っていない教員オリジナルの課題（表計算）を実施していたことに関連していると思われる。クラス②の方がクラス①よりも課題の量が若干ではあるが多いことになるため、学生にとって受講が困難だと感じた可能性があるのではないかと推測できる。

4.12 コンピュータと情報Ⅱを対面・遠隔の受講希望

「コンピュータと情報Ⅱの授業方法は、対面と遠隔の両方開講された場合、あなたはどちらの受講を希望しますか？（履修する以前の段階の場合で考えてください）」に対する回答を表15に示す。

表14 遠隔授業の受講のしやすさ

遠隔授業の受講のしやすさ	①人数(人)	②人数(人)	①割合(%)	②割合(%)
コンピュータと情報Ⅱの方が他の科目よりも受講しやすかった	11	9	31.4	33.3
他の科目とあまり変わらない	21	11	60.0	40.7
他の科目より、受講するのは難しいと思った	3	7	8.6	25.9

表15 コンピュータと情報Ⅱの対面・遠隔の受講希望

	①人数(人)	②人数(人)	①割合(%)	②割合(%)
対面授業	15	5	42.9	18.5
遠隔授業	10	12	28.6	44.4
どちらでもよい	9	10	25.7	37.0
その他	1	0	2.9	0.0

表15より、クラス①の方が「対面授業」の希望が多く42.9%であるのに対し、クラス②では、「遠隔授業」が44.4%となり、遠隔での受講希望が多いことがわかる。クラス②では、「どちらでもよい」が37.0%で、対面を希望する学生の割合の方が少ない。これについては、クラス②の教材である動画では、PCの操作画面を示しながら音声での説明をしているので、遠隔でも対面でも大差がない感覚で受講ができるのではないかと考えられる。言い換えると受講する学生が集中して学習できるか否かということに関係しているように思われる。

4.13 わからないときの質問

「わからないことがあったとき、質問しましたか」の回答を表16に示す。表16より、クラス①では、「1、2回質問をした」が最も多く34.3%であるが、クラス②では「質問したいことはなかった」ので、しなかった」が最も多く37.0%であった。

質問した理由について自由記述してもらったものから、質問した理由としては、「提出の仕方についての質問をした」、「資料の中の疑問点を質問

した」などが多く、中には「教科書や資料を見てもわからなかったのもあった。質問しなかった理由では、「先生の資料や調べれば理解できたから」「わからないことがあっても、自分で解決できることが多かったから」などあった。

5. まとめ

ここでは、初年次情報リテラシー科目である「コンピュータと情報Ⅱ」で行ったオンデマンド型の遠隔授業において、授業実施形態による学生の受講状況を2つのクラスで比較した結果、いくつかの違いが見られた。授業実施形態においてクラス間の主な違いは、クラス①の教材はPowerPointで作成した配布資料、クラス②はパソコンのスクリーンで操作している映像に教員の音声入りの動画を資料としていたことと、教材の配信がクラス①では授業日より前に、クラス②では授業日当日（授業開始時間）に行うなどであった。このような違いがあるが、学生が授業を受講する日は、ど

表16 わからないことがあったときの質問について

質問をしましたか	①人数(人)	②人数(人)	①割合(%)	②割合(%)
ときどき質問をした	8	5	22.9	18.5
1、2回質問をした	12	7	34.3	25.9
質問したいことはあったが、結局質問しなかった	6	5	17.1	18.5
質問したいことはなかった、しなかった	8	10	22.9	37.0
その他	1	0	2.9	0.0

こちらのクラスも授業当日が最も多いことがわかった。ただし、授業日前に教材配布しているクラス①では授業前日に受講している学生もやや多いことがわかった。また、授業を受講する時間帯は、授業の時間割通りの時間帯に受講している学生が低い割合で一定数いるものの、両クラスともオンデマンド型であることを有効に利用して昼間の時間帯や深夜の時間帯など様々な時間帯に受講している学生がいることがわかった。一番学習の役に立つ教材としては教科書と回答する学生がほとんどであるが、クラス①では配布資料、クラス②では動画としており、配布した教材に応じて学習の参考にしていることもわかった。

文化情報学部では初年次情報リテラシー科目としての学習内容として、表計算とHTML & CSSによるWebページ制作にしているが、初学者向けの難易度となるような教科書を用いている。本来、同じシラバスであっても教員が異なればいろいろな面で差があって当然と思われるが、教科書の難易度の質問では、「難しいと思う」と回答していても、遠隔授業の受けやすさは「他の科目とあまり変わらない」もしくは「コンピュータと情報Ⅱの方が他の科目よりも受講しやすかった」と回答しており、「教科書や資料を見れば、なんとかできた」、「質問したいことはなかったので、(教員に質問を)しなかった」という学生の記述がこちらのクラスでも見受けられた。このようにクラスによる授業形態の違いがあっても、一定の学習の質を担保できたのではないと思われる。

新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、2020年度は多くの大学が遠隔授業を実施し、遠隔授業に関する調査や実践も多くの大学で実施され、様々な形で報告がなされている⁽²⁾⁻⁽⁵⁾。とくに、オンデマンド型授業では自学自習を基本とする授業となるため、学習意欲の高い学生は問題なく学習が進められる一方で、そうではない学生では孤独感やコミュニケーション不足により学習が進みにくくいとされている。今回の報告では、「学

生同士で相談しにくい」と思っている学生がいることは示しているが、学習が進みにくい学生がいたかどうかについての調査は行っていない。情報リテラシー科目においては、そのような学生への支援は重要な課題であり、遠隔授業に限らず対面授業においても、その方策を検討していく必要がある。

参考文献

- 1) 松山智恵子、中島豊四郎：「初年次情報リテラシー科目における遠隔授業に関する調査～2020年度後期「コンピュータと情報Ⅱ」から～」、椋山女学園大学文化情報学部紀要、第21巻、2021年度掲載予定
- 2) 西垣順子：「遠隔授業環境における学生の学び」に関する教員アンケート結果報告」、大阪市立大学大学教育、18巻、2号、pp16-20 (2021)
- 3) 越智徹、館野浩司：「初年度情報リテラシー教育のオンライン授業における受講環境と疲労の調査」、情報教育シンポジウム論文集 (2021)、pp61-68 (2021)
- 4) 山下功：「遠隔授業の実施事例と授業改善」、新潟国際情報大学経営情報学部紀要、Vol.4、pp134-139 (2021)
- 5) 常陰則之：「情報リテラシー教育に関するオンデマンド型授業の実践についての一考察」、関西国際大学教育総合研究所、教育総合研究叢書、14号、pp193-204 (2021)

まつやま・ちえこ/文化情報学部准教授

E-mail : chiekom@sugiyama-u.ac.jp

なかしま・とよしろう/椋山女学園大学名誉教授・文化情報学部非常勤講師

E-mail : nakasima@sugiyama-u.ac.jp

